

81春闘 4月決戦 48時間ストライキを断固貫徹しよう

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

動労「本部」スト破り集団の敵対妨害を粉碎(佐倉拠点)

八一春闘四月決戦闘争は、大きな山場をむかえ、政府・当局の低額回答「ストなし春闘攻撃」に屈服するのか、それとも四八時間ストライキを背景とする実力闘争をもって反動化と大衆収奪・抑圧を強める政府支配階級に鋭くせまるのかという分岐点となっている。われわれは、三月ジェット決戦闘争の意義と成果をしっかりとふまえ、四・二三(二四スト)を反処分・反合・生活防衛・三里塚春闘として断固闘い抜こう。

政府・資本の低額回答

「ストなし策動を打ち破ろう」
私鉄総連は、昨日(二二)日未明に会社側より提示された第二次回答を拒否し、始発より一斉にストライキに突入した。

そして、京成労組を除き、基本給一四、七〇〇円(平均七、六三%)引き上げの第三次回答を受けて、午前七時すぎ、妥結した。
京成労組は、会社・経営者側が自ら招いた経営危機を合理化と大巾運賃値上げによって乗り切ろうとする会社側のゼロ回答に対し、ストライキを続行し闘い抜いた。

大手私鉄、総じて妥結「スト中止」という中で、焦点が三公社五現業関係に移り、わが動労千葉は地調委・公労委の事情聴取に関川委員長をはじめ派遣闘争委員がのぞんでいる。
こうした取組みを前面に全支部・職場における万全のスト態勢で本日以降のストライキに決起している。

政府・支配階級は、八一春闘に対し、ストなし春闘「低額回答をもって、春闘」そのものを圧殺・一掃し、とりわけ国鉄からストライキを一掃し、労働組合の完全なかかえ込みをはかろうとしてきた。
この攻撃と相まって、国鉄・私鉄運賃の大巾値上げ、大増税・軍事費拡大の八一年度予算の強行、憲法改悪攻撃、さらに国鉄三五万人合理化など、大衆収奪と搾取・軍事大国化攻撃を一層強めている。

従って、今春闘は単に「百円玉何個かの上積み」をかちとるだけの闘いとしてではなく、政府・支配階級の諸攻撃と対決する闘いと視点をもちた闘いでなければならぬのである。
われわれは、戦闘的労働運動の再生にむけた突破口としての三月ジェット闘争の意義と成果をさ

らに拡大し、今八一春闘を反処分・反合・生活防衛・三里塚春闘として闘い抜こうではないか。

「本部」スト破り集団の敵対を粉碎してスト貫徹へ

動労「本部」スト破り集団は、今春闘を「ストなし春闘」と位置付けて、全くやる気もないのに佐倉機関区をスト拠点に指定し、あまつさえ、スト前日の昨日(二二)日(佐倉機関区において「総決起集会」などと称する敵対・妨害を策動してきた。

この日、彼らは、裏切り者土屋粹らを先頭に三信ビルをはじめ「全支部」の根こそぎ動員でたつたの二七名をかき集めて十三時過ぎからたつたの二五分の「集会」を行なったのである。

この「集会」たるや当局に「この場所ですらせて下さい」などとお願ひして、佐倉機関区庁舎のはずれで局課員・白腕章約三〇名に見守られながら写真撮るためのみの集会ならざる「集会」であった。

しかも、佐倉の組合員七七八名は、土屋らの必死の説得にもかかわらず、乗務員詰所に入ったまま、ついに集会に参加しないというテイタラクであったのである。

一方、わが動労千葉佐倉支部は、十二時より庁舎前に約四〇名が参加して「本部」スト破り集団の敵対と闘争妨害を粉碎してスト突入・貫徹のため意志統一をかちとり、又、夕刻十八時より二六〇名のスト前夜集会を堂々と勝ちとった。
全組合員の皆さん。

八一春闘勝利・国鉄三五万人体制粉碎にむけ、「本部」スト破り集団の敵対・妨害をはねのけて四・二三(二四)決戦ストライキを闘い抜こう。